



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
 東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
 電話 03-5315-0941
 発行人 佐藤英樹 編集人 湯ノ目亜矢子
 毎月1回20日発行/一部20円
 (組合員の購読料は、組合費に含む)

2022年10月20日
第741号



JR東労組ホームページは
 ←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

2022年度年末手当等に関する申し入れ



基準内賃金の**3.3ヶ月**

新型コロナウイルス感染症対応に対する 特別手当として、全従業員 (出向者を含む)対象 **一律5万円**

支払い: **12月6日まで** 回答: **11月16日まで**



**社内世論を打ち破り
 職場から満額回答を
 勝ち取る!**

JR東労組は、10月20日に申
 6号「2022年度年末手当等
 に関する申し入れ」を会社に提
 出しました。

2023年3月期第1四半期
 決算(4~6月)は3期ぶりに
 黒字となりました。2022年
 度のお盆期間の鉄道のご利用状
 況は対前年19.8%と足元の業
 績は順調に推移しています。施
 策やコストダウンのみならず、
 鉄道開業から150年を迎える
 「鉄道の日」のイベントなども
 含めた「職場の努力」以外のな
 にもでもありません。過去最
 高の働き度によって、黒字化を
 実現してきた「職場の努力」に
 報いる姿勢を示して満額回答を
 すべきです!

過去最高の働き度や、物価上
 昇は止まらない中、私たちの賃
 金(2021年度)は、対前年
 10%も減少しています。このま
 まではこれまでの生活水準を維
 持することも厳しくなっていま
 います。コロナ禍以降、赤字・
 コロナ禍を理由に低額回答を繰
 り返す会社ですが、どれだけ私
 たちは我慢を強いられ、職場で
 努力をしてきたか。

2022年夏季手当の団体交
 渉において「2・3ヶ月回答の
 根拠は、職場の努力が足りな
 かった訳ではなく、赤字が大き
 原因である」と会社は述べてい
 ます。

期末手当を要求し、労使交渉
 ができるのは労働組合です。黒
 字になった今、仲間と共に堂々
 と満額回答を勝ち取ろう!

安全レベルの低下を直視し、「責任追及」を許 さず、安全哲学の再確立を目指す緊急声明



JR東労組は命を最大の価値軸に、安全第一の職場をつくるため「責任追及から原因究明へ」の安全哲学に基づき安全文化を継承してきた。JR東日本は会社発足以来、究極の安全を目指して、安全を経営のトッププライオリティと位置づけてきた。また、2020年9月に「変革のスピードアップ」を発表以降、「現実機関における柔軟な働き方」や「組織の再編」を提案してきたが、JR東労組は会社と真摯に労使議論を積み重ね、認識が一致しなかった部分もあるが、安全・サービスレベルの向上を図る施策であることや教育・訓練の必要性等を一致してきた。

■安全レベルの低下を直視しよう!

しかし、現実には安全レベルが低下していると断言せざるを得ない事象が後を絶たない。JR東労組の定期大会(2022年7月)以降を見ても、列車の流転や転落、墜落、転倒による怪我、取扱い誤り、待避遅延や汽笛吹鳴を受けても立ち止まらず移動を続ける等、事象が連続して各地で発生している。そして、10月8日には、パートナー会社において、軌陸車の移動中に道路上で事故が発生し、被害者が死亡する痛ましい事故も発生している。

この状況の中、施策を優先するあまり、安全に資するとは思えない事象も発生している。成田駅では要員不足を理由として、必要な見習い教育や見極めを行わず、管理者が信号担当に就く事象が発生した。「柔軟な対応」という言葉を誤認識していると指摘せざるを得ない。さらに、新潟支社では「組織の再編」に伴い、運輸区の乗務員指導・養成等の内勤業務を一職場に集約する等、誰が聞いても安全が向上するとは思えない提案が行われた。また、本人のキャリアプランや適性を無視し、生活設計にも配慮せず、モチベーションが低下する人事異動が各地で行われている。会社は、安全を経営のトッププライオリティと述べているが現実には乖離し、単なる掛け声になっていると指摘せざるを得ない。

柔軟な働き方や組織の再編等の施策により、働き方が大きく変化していることに加え、経験を多く積んだ昭和採用者の退職を迎えた過渡期において、系統問わず安全を揺るがす事象が後を絶たない危機的な状況である。

■相次ぐ事象に対し、「責任追及への回帰」では安全は守れない!

そのような中、乗務員が乗務中に業務用タブレットを使用する事象が発覚した。この事象は絶対起こしてはいけない事象だが、会社はこの事象に対し「守れるルールを自ら破る場合は、従来通り厳正に対処」として掲示を行い、職場からは「責任追及への回帰だ」と声が出ている。責任追及は事象の隠蔽に繋がるだけでなく、厳罰の恐怖による同種事故の押さえつけにしかならない。福知山線脱線事故の教訓からも、JR東労組は「責任追及」では安全は守れないと断言する!

会社は「守れるルールを破る場合は厳正に対処」と述べるが、一方で業務用タブレットや私用携帯電話を使用した勤務時間外の業務対応が横行しているではないか。いまだに組合が不当労働行為やパワハラと主張せざるを得ない事象が発生していることも看過できない。また、意識付けが無い人事異動の事前通知や管理者による勤務時間中の社外活動も発生している。労働者だけにルールの順守と厳罰化を押し付ける経営姿勢には納得感はない。

■「責任追及から原因究明へ」の安全哲学の再確立を目指し職場から実践しよう!

「責任追及から原因究明へ」の安全哲学は、1990年にJR東日本の労使が主催した国際鉄道会議で、31カ国の鉄道労使がそれぞれの条件と労使の立場を乗り越え、21世紀の鉄道の発展と安全のために、共通の価値観として創り上げてきたものであることは忘れてはならない!

JR東労組は、「責任追及」を許さず、事故を起こした仲間に向き合い、一つ一つの事象に原因究明・対策を講じる「責任追及から原因究明へ」の安全哲学の再確立を目指し職場から実践していく。

その実践を通じ、経営のチェック機能として安全を守るJR東労組の必要性を組織内外に訴えていくものである!

2022年10月11日
 東日本旅客鉄道労働組合



▼1872年10月14日
 に最初の鉄道が開業
 してから150年を迎
 えた。「鉄道の日」の
 イベントも各地で開催
 され、駅は賑わい、た
 らぬ。駅が破壊され職員の命が失われても
 ウクライナ鉄道は、多くの避難民と軍事
 物資を輸送するために走り続けている▼
 北海道には、陸自の弾薬約7割が保管さ
 れ「有事の際、兆候を早く察知し、早く
 多くの防衛物資を運ぶことが重要だ」と
 国土交通省の有識者会議で議論され、鉄
 道が利用されようとしている▼鉄道は、
 軍事利用されてきた歴史がある。150
 年が経過する中で環境や技術革新により
 変化するのはあるが、いかなる時も利
 用者に愛され親しまれる平和な鉄道でな
 ければならない。利潤を追求するだけの
 鉄路廃止や軍事利用ではなく、地域に根
 差した鉄道をつくっていくことが何より
 も重要だ。

は、ロシアによる軍事侵攻が続いてい
 くさんの笑顔があふれた▼ウクライナで
 (J・H)